



伝承文化

令和6年11月28日

園長 眞家 順子

秋の遠足を楽しんだ子どもたち。遠足に出かけることを楽しみにし、帰ってきた後は楽しかったことを、遊びの中で再現して楽しむ姿が見られます。

年長児は、遊園地に行った後、直ぐに楽しかった思いを再現したいと、自分たちで遊園地を作り出しました。作り出すと今まで年長児が作ってくれた遊園地ごっこに、自分たちも招待してもらい、楽しかったことを思い出す幼児もいました。

幼稚園教育要領には、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の一つとして協同性があります。協同性とは、友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになることです。スポーツデーを通して、友達と体をいっぱい動かす共通の体験が、友達と心のつながりを生みました。そして、今回、友達と協力して同じイメージで、目的の遊園地を作り上げる活動は、協同することのおもしろさを、さらに深めています。造形物は目の前に形として残っていくので、協力関係が目に見えやすく、物を通して友達と協力する達成感を味わいます。自分が作りたいと思う乗り物を選び、集まった友達と共通の目的に向けて、お互いに考えたり工夫したりしながら、協同する喜びを感じています。作り上げる過程には、自分の思ったことを友達に分かるためにどのように伝えればよいか考え、「ここに、チェーンを付けようよ」「いいね!」「何で作る?」「紙テープは?」輪にして作ったチェーンを付け外しみると「切れちゃうね」「(使い切ったテープの芯を示しながら)これは?」「でも、どうやってつなげるの?」「切って入れたら(挟み込んだら)、テープで留めればいい」「そうか」と友達の考えのよさを認める会話が聞こえます。また、考えが違ったときには、自分の気持ちを葛藤しながらも調整し、どうするとよいか考えていく姿も見られました。出来た後には、年下の学年や保護者を招待して、友達と協力して運営をしました。運営する上でも、誘導、チケットのスタンプ押し、乗り物を動かすなど、役割を考え行うために、どうするか折り合いを付けながら、協力しやり遂げることで充実感を味わいました。この遊びの伝承は年長児になった時に、文化として受け継がれ協同性を育む経験の一つとなっています。



今月の学年目標



- ・同じ遊びの場にいる友達と同じように動いたり、簡単にやりとりをしたりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
- ・鬼遊びや簡単なルールのある遊びなど、学級のみんなと一緒に遊ぶことを楽しむ。



- ・自分の考えたことや思いついたことを、遊びの中で実現する楽しさを味わう。
- ・ルールのある遊びや体を動かす遊びを通して、学級の友達と関わることを楽しむ。

- ・学級の友達とのつながりを深め、一緒に工夫したり協力したりして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・いろいろな遊びをする中で、自分なりの目標をもって取り組んだり、友達と力を合わせたりする楽しさを味わう。

